

MCE研究会／コンフリクトの人文学特殊演習

初期オペラの現代上演における諸問題:

「オーセンティックな演奏」と

「オーセンティックな受容体験」の対立を巡って

Staging Early Opera: Authentic Performance VS Authentic Experience

(日本語)

講師： 松本直美（ロンドン大学ゴールドスミス校講師）

日時： 2011年1月7日（金）16:00～17:30

場所： 大阪大学 文法経講義棟1階 文12

松本直美（音楽学者・声楽家）

京都市出身。愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒。故平田黎子、藤井多恵子氏に師事。1996年イギリスに渡り、トリニティ音楽大学大学院ディプロマ過程声楽専攻修了。同音楽大学演奏家資格取得。故ロバート・スペンサー、イアン・パートリッジ、テレサ・カーヒル諸氏に師事。1997年ロンドン Cochrane 劇場でのモンテヴェルディ作曲《オルフェオ》のニンフ役、《ポッペアの戴冠》の徳の女神役、同年ノルウェー Ringve 古楽祭でのブロウ作曲《ヴィーナスとアドニス》の羊飼いの娘役などバロックオペラでの演唱で評価を受ける。1999年より音楽学研究を開始。2000年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ大学院修士課程音楽学専攻をディステインクションを得て首席修了。2005年論文「The Operatic Mad Scene: Its Origins and Early Development up to c.1700」で同大学より博士号授与。17世紀のイタリア・イギリス声楽作品の研究に対して2001年 Universities UK Overseas Research Scheme Scholarship、2002年 British Federation of Women Graduates National Award、2007年 Gladys Kriebel and Delmas Foundation British and Commonwealth Award 各賞を受賞。共著に 1001 Classical Recordings (London, 2007)、Beyond Notes: Improvisation in Western Music in the Eighteenth and Nineteenth Century (Turnhout, 2011 出版予定)。また『音楽学』などに学術論文を多数発表。近年は特に17・19世紀イタリアオペラ、王政復興期のロンドン劇場について研究を展開している。

問い合わせ先：大阪大学大学院文学研究科音楽学研究室（伊東信宏研究室）

tel: 06-6850-5121